

千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会が行われました

千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会の印旛大会が11月19日(金),印西市立印旛中学校といには野小学校を会場に盛大に行われました。17年振りとなった印旛大会だったのですが,当日は北総管内はもちろん,管外と併せて450名近い先生方に参加していただくことができました。

会場校となった印旛中学校といには野小学校では,すばらしい授業展開をしていただきました。いには野小学校では全学級の先生が,そして印旛中学校でも理科を担当している先生全員が授業展開していただき,大変勉強になる提案をしていただきました。

全体会では多摩動物公園園長,そして上野動物園園長を務めていらっしゃった中川志郎先生にこれからの理科教育についての講演をしていただきました。

その後の分科会では,各会場入りきれないほどの先生方に参加していただきました。どの分科会でもすばらしい実践発表と熱心な協議が行われたようです。今後の学習指導の参考となる有意義な時間となりました。

~千理研印旛大会参加報告~

千葉県教育研究会理科教育部会研究発表大会を振り返って

酒々井町立酒々井小学校
教諭 立田 宜宏

日々の授業や実験の様子を見ると,生活の中で起こる事象や現象を既習の知識と結びつけている児童は少ない。そんな時に目にしたのが「児童が実感する学びを目指して」今回の千理研小学校部会のテーマである。

実体験を取り入れた学習過程や環境整備,学習と実生活との関わりを意識させた学習活動など,理科授業における自分自身の課題そのものである。

まず,驚かされたのは学習過程と環境である。事象との出会いや問題解決までの経緯,実験結果や児童のつぶやき・考えを大切にされた板書・掲示が見られた。実体験を伴った活動と掲示・記録がしっかりとされているからこそ,児童自身が学習の過程を振り返り,問題解決の糸口を見つけたり,多様な考えを比較検討したり主体的に学習に取り組むことができるのだと実感させられた。

次に,5年生の「電磁石の性質」では,身近な具体物から事象や現象を体験させ課題を捉える授業であった。実体験を通すことで生活と事象・現象がどのように関わっているのか,児童自身が身近な問題として疑問を持ち,意識を高める姿が見られた。このことから,実体験から実生活との関係を明確にすることで,関心・意欲を高め,同時に事象に対して知識の裏付けを行うことができるのだと実感した。

身近な事象・現象と学習から得た知識は,表裏一体であり同時に実体験が2つを結びつける大切な要素となっているのだと今回の千理研から学ぶことができた。